



2021 年 12 月 14 日

国際審判員 松田 雅彦  
(神奈川県ボート協会)

## **2021 ASIAN ROWING CHAMPIONSHIPS** **(8th, Dec, – 12th, Dec, 2021 Ban Chang, Rayong-Thailand)**

### 1. はじめに

2021 年 12 月 8 日 (水)～12 月 12 日 (日)に Ban Chang, Rayong, Thailand で開催されました Asian Rowing Championships に千田氏 (国際委員長/今大会 President of Jury) と共に国際審判員として参加致しましたので、審判業務及び大会概要につきましてご報告申し上げます。

尚、本大会はアジアジュニア選手権も併催予定であったが参加国が 6 ヶ国に満たなかったため中止となった。

### 2. 渡航時のコロナ感染症対策

タイ渡航に際し以下の事前準備が必要であった。(現地入国時及びホテルチェックイン時に提示を求められた)

#### 1) Thailand Pass (QR コード)の入手

HP 上から申請するもの。渡航時の隔離ホテルも入力する必要があるがタイ協会から指定されたホテルは HP 上のリストになく参加 ITO がメールで問い合わせしても回答が無かった。その為、リストにある同じようなホテル名を選択して申請をしたところ数日で許可が下りた。

#### 2) 海外旅行保険 (補償金額 5 万ドル以上) 証明書。

上記 1)Thailand Pass の入手に必要なものとして海外旅行保険 (補償金額 5 万ドル以上) があるが、今回タイ渡航者の中に 5 万ドル以上 (10 万ドル以下) にも関わらず Thailand Pass 申請が reject された。保証金額を 10 万ドル以上に変更したところ許可が下りたとのこと。

#### 3) 英文ワクチン接種証明書 (2 回)

#### 4) 渡航 72 時間前 PCR 検査陰性証明書)

この起算時刻はフライト出発時刻。

タイ到着後、空港から OC 手配の車でホテルに移動し自主隔離となり、翌 6 日 07 時 30 分にホテル内の駐車場に設置された簡易 PCR 検査場で検査を行った。到着後から PCR 検査結果が出るまでの食事はホテルの自室で配布された弁当を頂いた。

検査結果は陰性であれば特に連絡はなく、陽性の場合のみ連絡されるようである。（今大会は大会参加者に陽性者は出なかった）



ホテル駐車場での PCR 検査

### 3. 大会概要

#### 1. 大会日程

今大会は以下の通り種目別に Group A/B に分けて行われた。

尚、当初 5 日間の大会であったがエントリーしていたクルーがフライト減便のため大会初日に間に合わず日程を 1 日ずらし 4 日間となった。

12 月 6 日（月）ホテルで隔離

12 月 7 日（火） 16:00～ Jury Meeting / Umpire Seminar Part I

12 月 8 日（水） Practical Start 10:00～11:00 / Draw 13:00～

12 月 9 日（木） Racing Group A Heat / Umpire Seminar Part II

12 月 10 日（金） Racing Group B Heat, Repechage / Umpire Seminar Part III

12 月 11 日（土） Racing Group A Final A

12 月 12 日（日） Racing Group B Final A

| Group A | Group B |
|---------|---------|
| M1x     | LM1x    |
| W1x     | LW1x    |
| M2x     | LM2x    |
| W2x     | LW2x    |
| M4 -    | W4x     |
| LM4x    | M4x     |

Team Manger Meeting はリアル方式で開催され Jury は POJ のみ参加した。

今大会は参加クルーが少なく殆どが Preliminary と Final race となった。その為、レース数が少なくレース間隔を 15 分とし umpire boat は dynamic 方式で行われた。

Zonal 方式は波を立てない点では効果があるがこれはクルーの技量が高く umpire boat からの注意喚起を然程必要としない大会では問題無いと思料する。逆にクルーの技量が低く umpire の注意喚起が必要な場合は dynamic の方が効果がある。特に umpire boat の待機位置と逆サイドで注意喚起が必要な場合は視認しづらく迅速な行動が出来ない可能性が高い。

#### 2. Course

## Royal Thai Navy Rowing Center

このコースは 2019 年にタイの海軍の訓練施設として建設されたものである。ボートとカヌーの競技場が併設されている。コースは 2000m、6 レーン、回漕レーン、cool down レーンを確保することが出来る。宿泊施設からの移動は大型バスで約 20 分。

2019 年アジアジュニア選手権開催時は渇水の為、1950m の大会となったが今大会は豊富な水量で問題無く 2000m の大会を開催することが出来た。

又、審判各部署の設備も整っており、特に判定塔や観覧席は立派な建物であった。海軍が全面的に支援しており Boat Holder や Safety Boat も軍人が担当していた。特筆すべきは判定塔屋上に監視員が 1 名配置されており双眼鏡で常にコース全域を監視していた。この位置からはコースを一望出来るので沈が発生した場合は迅速に救助艇に指示できる。



判定塔と観覧席



Course



隣接されたカヌーのスラロームコース



判定塔屋上の監視担当

## 3. Events

|                   |                                               |
|-------------------|-----------------------------------------------|
| Men               | 1X (5 か国) , 2X (6 ケ国) , 4X (5 か国) , 4- (3 か国) |
| Women             | 1X (5 か国) , 2X (4 か国) , 4X (7 か国)             |
| Lightweight Men   | 1X (7 か国) , 2X (5 か国) , 4X (5 か国)             |
| Lightweight Women | 1X (5 か国) , 2X (6 ケ国)                         |

### ※Protest (M4- / インド)

今大会は M4-のレースが開催されたが当初インド及びタイの 2 か国の参加であったため、タイ OC 担当者が勘違いしインドに M4-は cancel と誤った通知をした。結果として M4-は 4 か国の参加となり M4-は開催されたがインドは本件を不服とし Protest Letter を提出した。然し乍、World Rowing Rule では entry に関する Protest は受け付けておらず本件については OC のミスとしてインドに謝罪した。

今回は Board of Jury の決定事項を署名入りでインドに提出した。内容は Rule 上 Protest が可能なケース及び Entry の Rule を記載し、OC の回答に誤りがあったもののインドもこの Rule を理解していなかったことが記載された。

発生した事象がルールに基づいて行われたか否か、責任の所在を明確にすることが重要である。インドからこの回答に対して誠意ある対応に感謝する内容の回答があった。

#### 4. 参加審判員 (ITO)

Technical Delegator & Jury Members (8ヶ国 合計 16名)



## President of Jury

|       |       |     |      |
|-------|-------|-----|------|
| SENDA | Takao | JPN | 1230 |
|-------|-------|-----|------|

## Juries

|                   |              |     |      |
|-------------------|--------------|-----|------|
| GUPTA             | Sandeep      | IND | 1536 |
| YADAV             | Smita        | IND | 1394 |
| MATSUDA           | Masahiko     | JPN | 1614 |
| KAY               | Dong Hoon    | KOR | 1635 |
| KHAING            | Mon Mon      | MYA | 1655 |
| KHAN              | Imtiaz Ahmad | PAK | 1195 |
| WELIKALA          | Lasantha     | SRI | 1700 |
| PHONGPHANPHANEE   | Chairat      | THA | 1775 |
| POCHANASOMBURANA  | Angela       | THA | 1818 |
| POCHANASOMBURANA  | Prapampongs  | THA | 1558 |
| RACHNAVY          | Pornthep     | THA | 1660 |
| SONTAYANANON      | Sijnee       | THA | 1776 |
| THAMTHAVORNVANICH | Sittichok    | THA | 1777 |
| WONGSRIRATANAKUL  | Jirawat      | THA | 1819 |



## ITO/ NTO

### 5. 審判業務

#### ①審判部署 (小生)

・ Dec, 9th : Res. CC

(Thu)

今大会は Swift Racing のレンタルボートが多く Advertising 違反は無かった。

又、ユニフォームも同様に違反は無かった。

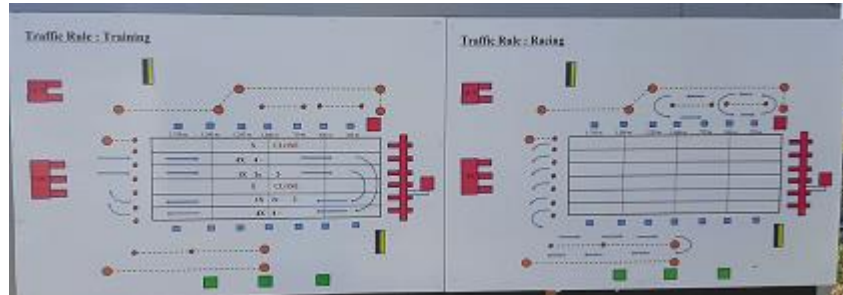
CC の NTO は業務が予め割り当てられておらず業務内容から教えることとなった。

ただ、覚えると業務を忠実にこなすので問題無かった。

Boat Weighing は計量器が 2 台あったが NTO 担当者が計量器の設定の仕方を理解

しておらず手間取った。又、計器の使い方が丁寧ではないので故障の原因になるかと思料。

この Course は Warming up Area は反時計回りで Cool Down Area は時計回りであった。又、Cool down Area はブイの設置の仕方も影響したのかクルーは Warming Up Area 同様反時計回りをしていた。航行規則違反クルーには Reprimand or Yellow Card の対応となるが慣れないコースでは時計回り、反時計回りはいずれか統一する方が判り易であろう。



・ Dec, 10th : Umpire 1 / Res. Judge at Finish

(Fri)

全ての Umpire Boat には屋根が設置してあった。White Flag を振るには難点があるが雨天時や日差しを避けるには効果的である。



Umpire Boat

写真判定は IMAS 社を起用していた。写真判定のカメラが判定員の前に設置されていたため、見通し線が見えにくくなっている。本来カメラは屋上に設置すべきものであるが今回はこのような設置となった。



判定

・ Dec, 11th : Boat Weighing

(Sat)

Boat Weighing は 2 台の計量器を用いて計量するが、Test Weight をした結果、1 台は正確に計量出来るが、もう 1 台は若干誤差があった。これまでの計量においてクルーからのクレームや BUW はなかったが、計量は正確でなければならないので本件 POJ に報告し、翌日は計量対象クルー無しとした。

又、Test Weighing 用の 20kg Weight は 1 個しかなかった。

テスト計量は大会を通じて 1 回程度で済ませているクルーが多いが欧州の強豪クルーは毎日練習前に計量していた。これは計量の重要性の認識の違いであろう。

・ Dec, 12th : Starter

(Sun)

Start System は問題無く作動していた。

LW1X で中国クルーから波があるので 3 レーンから 1 レーンに変更してほしいとの申し出があった。今大会は **Athlete selection** は導入されておらずレーンは **Fairness Committee** が当日のレーン状況を見て判断するものである。当日の状況は波はあったものの各レーン同様のものでありレーンによる不公平性は見られなかった。この中国 LW1X クルーはその後の LW2X にダブルエントリーしておりその際も同様の申し出をしてきた。同様に断ったが、他の中国クルーから申し出は無かったのでこのクルーのみ勘違いした可能性はある。

クルーからボートホルダーにペットボトルを投げる傾向にあるがペットボトルがボートホルダーに当たること、又、感染対策からこれは禁止すべきである。

チームマネージャーミーティング時に通告することやボートホルダーに受け取らないことをクルーに伝えるなどしていくべきである。



Start

## ②大会中の感染対策

会場ゲートでは体温検査を行い会場内ではマスク着用が義務付けられた。消毒液も各所に設置されていたが、ソーシャルディスタンスを確保することや、黙食は徹底出来ない面はある。継続的に周知させていくことだろう。

PCR 検査は入国日と帰国時のみ行われた。

## 6. Umpire Seminar

今回は Umpire Seminar が 3 日に分けて開催された。通常通り World Rowing の体制、Jury 各部署、ルールの変更点、Coastal, Beach rowing 等の説明が行われた。

Coastal 及び Beach Rowing については詳細に説明され Coastal は接触等による Protest が多くこれらに対する Rule 改正の説明も行われた。



## 6. 帰国時の手続き

帰国時は帰国便搭乗時刻 72 時間以内に PCR 検査を受け証明書を入手する必要がある。OC が全て手配し PCR 検査は入国時同様ホテル駐車場に簡易検査場を設置し検査を行った。日本以外は概ねタイで発行される英文の陰性証明書があれば問題無いが、日本は厚生労働省が指定する定型の書類に記載してもらう必要がある。この書類を OC に提示したところ病院側から千田氏と小生の 2 名は医師の診断が必要となり Bangkok

Hospital に向かうことになった。この書類は PCR 検査の陰性を医師が証明するものであり診断が必要ではない。結果としてタイボート協会から病院に電話で本件説明し診断は不要となり問題無く所定の証明書に署名頂いた。やはり自国の証明書以外の書類に署名することに抵抗はあるだろう。帰国後は自宅にて 14 日間の隔離となった。個人のスマートホンに位置情報・健康状態報告等のアプリをダウンロードし管理されることとなる。

余談だがこの病院に行く車がホテル前で待機中、運転手がうっかりエンジンをかけたまま車外に出てドアを閉めてしまった。日本国内の車であればこの状態でもドアはロックされないが海外の車の仕様は異なる様である。その為、代替車を手配して病院に向かった。ロックされた車であるが合鍵を取りに行くようなことはせずロックから約 1 時間半後に自力で鍵穴を使ってロック解除した様だった。因みにこの車は日本の某社製であった。

#### IV. 各写真



Boat House



In Pontoo



Control Commission



Boat Weighing



Boat House 内部（可動式でアーム無し）



線審



Jury Meeting

#### V. 終わりに

タイが設備投資は勿論 ITO/NTO の人材確保からかなり力を入れていることは見受けられる。又、大会運営サポート面でも海軍関係者が配置されており体制には問題無いと思料する。

但し、これはアジアの国であればどの国も同様かもしれないが特に今回の様なコロナ禍では特別な対応が必

要でありその対応も各国により異なるのでそれらに応じた対応が必要となる。事前に派遣国からホスト国に必要な情報を伝えておき対応しておくことであろう。

又、上記の通り今大会の参加クルーは少なかったが大会運営ノウハウを継承するためには感染対策を万全にしながら大会を開催することである。

最後になりましたが、本大会に派遣させて頂きました事に就きまして、ご尽力頂きました関係各位に心より感謝を申し上げます。

以 上